

令和2年度 第3回富土地域医療協議会

第4回富土地域医療構想調整会議 議事録

日時：令和3年3月2日（火）午後7時から午後8時15分

場所：インターネットによるWeb会議

1 出席委員

出席委員 23人（詳細は別添出席者名簿のとおり）

（静岡県地域医療構想アドバイザー 浜松医科大学 竹内特任准教授）

2 配布資料

資料1～資料5（詳細は別添資料目次のとおり）

3 議事

- （1）第8次静岡県保健医療計画（圏域版）の中間見直しについて
- （2）公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証について
- （3）令和2年度病床機能再編支援事業費補助金の実施について
- （4）静岡県保健医療計画に記載する医療連携体制を担う医療機関の異動

4 報告

- （1）地域医療介護総合確保基金

渡邊議長：それでは議長を務めさせていただきます。円滑な議事進行につきましては皆様方のご協力をお願いいたします。本日の会議では、富士市医療圏における医療提供体制について、現状を確認し、課題等について、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。最初に議事1、「第8次静岡県保健医療計画の中間見直しについて」です。事務局から説明よろしくをお願いいたします。

内藤医療健康班長：（資料1-1の説明（P1））

渡邊議長：はい、ありがとうございました。ただいま事務局から「第8次静岡県保健医療計画の中間見直しについて」説明がありましたが、ご質問やご意見がありましたらお願いいたします。特にご意見等はございませんでしょうか。
よろしいでしょうか。では続きまして、議事の2、「公立公的医療機関等の具体的対応方針の再検証について」に移ります。まずは共立蒲原病院から現状認識、取組事項及び今後の展望についてご説明をお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

共立蒲原総合病院西ヶ谷院長：蒲原病院の院長の西ヶ谷でございます。よろしくお願ひいたします。共立蒲原総合病院の今後の対応についてご説明させていただきます。資料の5ページの資料2-2をご覧ください。時間の制限がありますので、要約してご説明いたします。1 共立蒲原総合病院の基本情報について、これに関しましては、5ページの表に記載されているとおりであります。常勤は20名、非常勤医師が34名と、まだまだ常勤の数が少ない病院であります。今年の3月に1名加わりましたので、現在の常勤の方が21名です。

6ページをご覧ください。現状認識と取組事項について現在の地域における急性期機能や将来の人口推移と医療需要の変化等の環境変化を踏まえた2025年を見据えた自医療機関の役割についてです。前半の部分であります、現在の地域における当院の役割、富士医療圏は医師少数区域であり、当院と富士市中央病院、富士宮市病院の公立3病院は、機能分担しながら相互に連携し補完し合いながら、この地域の急性期医療を支えています。新型コロナウイルス感染症に関しましては、帰国者接触者外来の指定、富士圏域新型コロナウイルス感染症対策連絡調整会議参加、発熱等診療医療機関の指定を受け、年末年始も毎日診察を行い、コロナ陽性患者さんの協力医療機関としても対応して参りました。令和3年1月からは、新型コロナウイルスワクチン接種に向けた準備も開始しております。救急医療については、一次二次救急に対応しており、富士、静岡の両医療圏域の患者さんを受け入れております。救急車で当院に搬送されてきます1月から12月までの年間患者数は平成28年から年間1,000人以上に及び、令和元年は1,222人、令和2年は1,233人でした。昨年はこのコロナ禍の中ではありますが前年を上回っております。富士市中央病院が新型コロナ重点医療機関になり、一時的に一般病床が減少しているため、救急車の受け入れが困難となる時もあるかと考えられ、当院としても受け入れに協力して参りました。人工透析センターも運営しており、慢性腎疾患の患者が多いこの圏域において、人工血管内シャント術を施行し、この地域の透析医療にも貢献しております。昨年5月より心臓カテーテル手術や末梢動脈疾患のカテーテル治療を再開し、症例数が徐々に増加しております。脳疾患や整形外科の急性期医療にも貢献してきました。静岡県地域肝疾患診療連携拠点病院として、最近では患者数が減少してきましたが、ウイルス性慢性肝炎の治療にも貢献してきました。災害医療について当院では、その地理的特性から静岡市、富士市、富士宮市、三つの市から救護病院の指定を受けています。災害時に地域の唯一の病院として果たすべき責任は重いと考えております。昨年度にBCPを策定し、現在においては、新型コロナウイルスなど感染症対策を踏まえた計画もこれに加えて、見直しを行っております。このように新型コロナウイルス感染症一次二次の救急医療、急性期医療、災害医療に対応できる準備などを行ってきました。

次に7ページの下枠のところであります。後半の将来の医療需要の変化等を踏まえた自医療機関の役割についてです。高齢者世帯やひとり暮らしの高齢者が増加し、公共交通機関が脆弱な地域にあって、身近な医療機関として急性期を含めた医療の必要性は高まっております。救急医療に関し630問題を抱えております。人口は減少傾向にあるものの、高齢化の進展とともに、救急隊の出動は増えております。公立3病院の一つとして、救急医療のさらなる充実を図っていきます。当院は、これまでも独自

医師を確保してきました。平成28年4月には、常勤が15名だった数も本年3月には21名になりました。また、当院の医学生修学資金貸与制度により現在4名に貸与してきました。数年後からは順次当院への入職が可能になると考えております。直近のデータにおいては、当圏域の医師偏在指数が、県内の二次医療圏の中では下から2番目に位置し、全国では下位3分の1の中にランクされております。また大きな病院が少ない医療圏と考えております。当院の今後の役割の一つとして、常勤の数を増やして、急性期医療も含めて、この地域においては臨機応変に対応できるように取り組んでいきたいと考えております。

8ページをご覧ください。②これまで取り組んだ医療機能の変更等、機能転換、減床、診療科の見直し等についてです。地域医療構想の考え方に沿って、平成28年10月に急性期28床を回復期（地域包括ケア病床）に機能転換しました。また、平成30年4月に急性期10床を減少しております。地域医療構想の考え方に沿って次第に病床の転換再編を行ってきました。3、今後の展望について、自院の将来展望、医療機関との連携等についてです。当院は旧清水市、旧富士市の間にあって、医療資源の乏しかった旧庵原3町と旧芝川町が設立した一部事務組合立の病院でした。その後の合併によりその構成が静岡市、富士市、富士宮市になりましたが、地域住民の生命を守る役割は今も昔も変わっておりません。現在も旧4町の住民の利用度が高い病院であります。同圏域の医師偏在指数は大変低く早急の改善が待たれるところであります。当院の医師数も現在徐々にではありますが増えており、今後もさらに診療体制を充実させていこうと考えております。救急医療については、静岡市葵区柚木の静岡市急病センターまで約29キロメートル、富士市津田の富士市救急医療センターまで約9キロメートルの所にあります。医師少数地域にあって、静岡市、富士市両市の患者をほぼ半数ずつ受け入れています。今後、救急医療センターや消防救急隊とも連携しながら、住民の安心のために、救急医療体制の充実を図っていくつもりです。血管障害、外傷、腫瘍、生活習慣病など、当圏域内で治療が行われるように、地域の病院と連携しながら努めていきたいと考えております。新型コロナウイルス感染症など新興感染症にも対応できる診療体制を構築し、圏域内の公立病院と連携を図りながら、その使命を果たしていきたいと思っております。地域の保健予防推進の観点から健康診断センター事業の充実も図っていきたいと考えております。したがって、今後も引き続いて、現状の病床の体制で病院を運営していこうと考えております。以上でございます。

渡邊議長： はい、ありがとうございました。続きましてワーキンググループの意見及び議論の結果について、事務局から説明をお願いいたします。公立公的医療機関等も具体的対応方針の再検証についてご説明いたします。

大竹医療健康課長：（資料2-1の説明（P2））

渡邊議長： はい、ありがとうございました。ただいま、共立蒲原総合病院及び事務局から具体的対応方針の再検証についての説明がありました。ワーキンググループでの議論の結果では、共立蒲原総合病院の対応方針は了承されているとのこと。ご意見やご質

問がありましたらお願いいたします。

静岡県地域医療構想アドバイザー竹内特任准教授：今、西ヶ谷先生から非常にご丁寧なご説明がありました。このワーキンググループの中ではもう全く異論がない状況だったと思います。あと、一つ付け加えたいのですけれども、実はご説明があったように、蒲原総合病院、静岡の医療圏の中でも、特に清水区の患者さんが多いということで、静岡のワーキンググループでも非常にやはり重要な位置付けがあるということで、お話があったことを付け加えたいと思います。以上です。

渡邊議長：はい、ありがとうございます。他にどなたかご意見ございますでしょうか。もしないようでしたら構成市の富士市の方から何かご意見ございますでしょうか。お願いいたします。

富士市伊東保健部長：今回のワーキンググループのご意見等につきましては大変富士市としても感謝申し上げる次第でございます。当初より蒲原病院の問題につきましては、必要な病院であるということ、申し上げてきた通りでございます。今回病院関係者の皆様からもワーキンググループの方で認めていただいたとのことでありがたく思っております。今後の蒲原病院につきましては、富士市としても強くバックアップしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

渡邊議長：はい、ありがとうございます。続きまして富士宮市の方、ご意見お願いいたします。

富士宮市小林保健福祉部長：ワーキングの方の意見にもございました通りで富士宮市としまして、現在、蒲原病院さんには、年間で外来と合わせて1万人以上の市民の方がお世話になってるということ。また、救急搬送の受け入れ先としても必要な非常に貴重な受け入れ先であるということは、市の方としても認識しているところでございます。今回の新型コロナウイルス感染症におきましても、地域外来、協力医療機関ということで、地域になくてはならない存在感というものは示されたのかなということで認識しておりますので、今後とも今と変わらぬ継続を富士宮市としても、お願いしたいと考えております。以上でございます。

渡邊議長：はい、ありがとうございます。続きまして、静岡市もよろしくお願いいたします。

静岡市保健医療課長：はい。静岡市でございます。よろしくお願いいたします。まさに西ヶ谷先生がおっしゃった通りでございます。特につけ加えることはございませんけど、やはり蒲原病院の必要性とか重要性っていうのは極めて高いものっていうのは認識している通りでございます。引き続き現在の体制を維持できるように富士市、そして富士宮市と、構成市の皆様と、連携しながら今後も対応していきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

渡邊議長：はい、ありがとうございました。その他のどなたかご意見ご質問がございますでしょうか。なければ、富士圏域としましては、共立蒲原総合病院の今後の対応については承されたことを県に伝えたいと思います。続きまして、議事3「令和2年度病床機能再編支援事業費補助金の実施について」に移ります。まずは概要について事務局からご説明お願いいたします。

内藤医療健康班長：（資料3-1の説明（P9））

渡邊議長：はい、ありがとうございました。次に、富士圏域でこの補助金を申請しています2つの診療所の方に地域医療構想実現に向けての状況についてご説明を願います。まずは、宮下医院の方からお願いいたします。

宮下医院宮下理事長：宮下です。当院で病床削減の理由なんですけれども、大きく二つあります、一つは内科的な患者さんがいたんですけれども、その退院にあたりまして、特に高齢者においては、在宅を進めたんですけれども、あまり希望しないということ。それから家族がですね、在宅の介護は大変だから、施設をお願いしたいということが多くなってきたこと。それから介護施設も最近では待ち時間もあまりなくて、早く入れていただけるということで老人の部分が減りました。これがまず一つ。それから第2ですが、外科に関してなんですけれども、昭和56年から外科の手術をやってきました。まず疾病の病気が変わってきたということで、特に胃潰瘍が一番だったんですけれども、薬で良くなってしまったんですね。ですから、手術しなくても済むようになってしまったということが、治療法で大きな違いだと思います。それから手術の術式の変化は非常に変わってきたということですね。昔はですね胃潰瘍なんかいわゆる先行出血狭窄というものがありましたが、それについての回復手術をよくやったんですけれども、最近ではその疾病が少なくなったということと、そのような症状では処理するのは内視鏡的な手術というのがほとんどになってきました。特に陽性腫瘍、胃潰瘍なんかは、ほとんどはもう内視鏡手術になってしまったということで回復手術で長い時間を費やしてというようなことはまずやらなくなったんですね。それから、特に私は肛門手術を主にやってきましたが、ポンプ手術をやるので入院期間が長かったんですね。ところが今は、注射療法がほとんどで、そのうち7、8割は内痔核がありますので、その内痔核に関しての手術を主にやってきたんですが、1泊2日でできるということで長い期間の入院設備は必要でなくなったということ。それから、入院手術しなくてはならないような手術については、近隣の川村病院だとか、聖隷病院だとか中央病院だとかという先生にお願いしまして、何とかなるのではないかとということ。病室はもうほんの3床でもよいのではないかなということになりました。今まで2階3階に病床がありました。2階部分は7床ありましたが、それを1泊2日の入院の3床残して、4床は必要なくなったということ、それから3階部分は、12床ありましたが、これからそういう病気の治療っていうよりも、予防医学も大事だなということで、健診センターにして、改装をしましたので、そこが12床余ったこと、合わせて16床が必要なくなったということで、その分、有効利用に使ってもらいたいということで、16床の

削減をしました。以上です。

渡邊議長：はい、ありがとうございました。引き続き、たむらレディースクリニック田村院長にお願いいたします。

たむらレディースクリニック田村院長：お願いします。はい。たむらレディースクリニックの田村です。よろしくをお願いします。当院では分娩を中心とした急性期病棟が13床あったんですけれども、20年前だと富士市の分娩数が2,600件以上年間あったんですけれど、2019年の統計では、2020年度までは統計が出てないんですけど、1,600まで分娩数が落ち込んでいます。多分このペースでいくともうすでに1,500以下というふうなペースがかなり落ち込んでくるんじゃないかというふうに思いまして、当時中央病院も含めまして私どもともう1軒、全部で分娩施設3軒で分娩を行っていたんですけれども、現状、おかげさまで分娩施設も増えまして、当院、中央病院も含めまして5軒の分娩施設になりまして、対応するのにちょっと分娩施設が多すぎるといこともございまして、それで分娩施設を閉めることによって、健診なり更年期等の地域医療に貢献したいということで、13床から2床と減少しております。この2床というのは小手術をした場合に婦人科的な麻酔に関してはケタミンを使ったりとかプロポホルを使うことが多いので、どうしても数時間の安静というのが、朝手術をしましてお昼過ぎぐらいまで安静にして経過観察が必要になるため、2床と減少しております。分娩を休止したことによる患者さんですけれども、中央病院なり他の分娩施設と連携してあり、承諾をとっており、患者さんに不便がないような対応はもう既にしてしております。ということで現在2床ということで11床減少ということになりました。以上です。

渡邊議長：はい、ありがとうございました。ただいま宮下医院、たむらレディースクリニックから病床機能再編支援事業費補助金の実施について説明がありましたが、ご質問やご意見がございましたらお願いいたします。

特にございませんでしょうか。それではこれで地域医療構想改定調整会議についての議題は終了いたしました。本当に皆さんご協力ありがとうございました。引き続き地域医療協議会の議題について移りたいと思いますので、鉄先生、よろしくをお願いいたします。

鉄富士保健所長：渡邊先生どうもありがとうございました。保健所長の鉄でございます。地域医療協議会の議題についてお願いいたします。議事4「静岡県保健医療計画に記載する医療連携体制を担う医療機関の異動について」です。事務局から説明してください。

内藤医療健康班長：(資料4-1の説明(P14))

鉄富士保健所長：ありがとうございました。ただいま事務局から、「保健医療計画に記載する医療連携体制を担う医療機関の異動について」説明がありましたが、ご質問やご意見等がありましたらお願いします。

よろしいでしょうか。続きまして報告事項に移ります。報告事項1、「地域医療介護総合確保基金について」、事務局から説明してください。

大竹医療健康課長：(資料5の説明 (P17))

鉄富士保健所長：ただいま事務局から地域医療介護総合確保基金について、説明がありましたが、ご質問やご意見などがありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。それでは全体を通して、或いは本日の議題とは別に、ご質問やご意見等がありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。本日は貴重なご意見等いただき誠にありがとうございました。また議事進行へのご協力ありがとうございました。それでは、議事を終了してマイクを事務局に戻します。

議事終了